

授業に臨む自身への厳しい姿勢が 明日の授業をつくれます

～第2回校内研究会～

11月12日(水)、今年度2回目となる研究授業を、3年生の教室で行いました。研究授業は、我々教職員の授業力向上をめざし、具体的に授業を全職員で見て、授業の流れや教師の発問の仕方、板書、手立て等について、よかった点や改善点を協議し、日頃の授業に活かそうというものです。今回は、算数“分数たす分数の計算の仕方”を題材にした授業でした。

この授業では、「5分の2Lのジュースと5分の1Lのジュースを合わせると何Lになるのだろうか」という問題を踏まえ、「5分の2たす5分の1の計算の仕方」について、子どもたちはそれぞれ考えていきます。

単に分子同士の数をもとに2+1とたして5分の3と導く子、リットルますの絵や数直線をヒントに分子の数を2+1とたして答えを導く子と、導き方はさまざまです。しかし、いずれの子も、5分の3という同じ答えを導いています。

そこで、先生が、「分母同士と分子同士をそれぞれたして、答えは10分の3Lになるのではないかと、子どもたちに揺さぶる問いかけをしながら、ジュースが5分の2L入ったリットルますと5分の1L入ったリットルます2つを積み重ねた絵を提示して見せます。すると、どの子も「違う」と力強く答えます。

それを受け、2+1と分子の数のみをたす意味について考えさせます。単に「分母が同じ場合、分子同士をたせばよい」と頭で理解している子にも、「なぜそうするのか」の理由を明確にしなければなりません。

やがて、5分の2たす5分の1は、「5分の1が2つ分と1つ分をたすので、5分の1が3つ分となり、5分の3となる」ことがわかり、分数たす分数の計算の仕方をみんなで学ぶことができました。

子どもたちが下校した後、研究協議を行いました。その中で、よかった点として、板書の丁寧さとともに、子どもたちそれぞれの考えを比較・検討しやすいような横並びの板書にしていたという板書のよさが挙げられました。



一方で、「10分の3Lの扱いをもう少し丁寧に扱い、分母同士と分子同士をそれぞれたすやり方は違っていることをしっかり納得させるようにした方がよかった」「授業の肝であった「5分の1の〇つ分」という言葉を、教師がもっと強調しながら発し、子どもにしっかり意識づけるようにするとよかった」ということが挙げられました。

さて、本授業を行った担任は、この日に向けて、授業に臨む他の教職員が授業の流れがわかる学習指導案とともに、“自身で、どのタイミングでどのような言葉を子どもたちに問いかけようか” また、“子どもはどう答えるだろうか” という実際の授業を想定しながら子どもとのやりとりを細かく描いた授業のシナリオを作成して臨んだようです。

その努力の甲斐あって、当日は、すばらしい授業を見せてくれました。

「みんなが図書室に来てくれて楽しい」

～校内読書週間～

秋の読書週間に合わせ、図書委員会の子もたちが、“全校のみんなにもっと読書に親しんでもらおう”と、今年度も校内読書週間の企画を考え、11月5日(水)～20日(木)の間、取り組んでいます。

①「くじ ～ブックプレゼント～」

図書委員が学年ごとのおすすめの本を準備しておく。くじを引き、くじに書かれている本を借りることができる。

②「クラスでパズルを完成させよう！」

本を返却するとき、パズルのピースをもらえる。クラスみんなで全ピースを集め、パズルを完成させる。

③「借りよう プラス1」

校内読書週間中は、いつもより1冊多く本を借りることができる。

④「オリジナルしおりづくり」

休み時間に、10分間図書室で読書をしたら、オリジナルしおりをつくることことができる。

ある休み時間、図書室を覗くと、たくさんの子もたちがやってきています。カウンターで図書の本を借りる手続きをしている子、パズルをしている子、机で読書をしている子とさまざまです。

一番賑わっているのは、しおりコーナーで、10分間読書を終えた子どもたちが集まっています。用意されているいろんな形に切り抜かれている紙を、しおりの形をしたフィルムに好き好きに挟むようで、図書委員に作り方を教えてもらっています。「こんなの作った!」と、うれしそうに私に見せてくれる子もいます。

図書委員会の子もたちは大忙しですが、どの子も「忙しいけど、みんなが図書室に来てくれて楽しい」と、語ってくれました。

別の日、階段で図書室帰りの子どもに会いました。その子は、「いつもより1冊多く借りました」と教えてくれました。

図書委員が考えてくれた企画のおかげで、進んで図書室に足を運び、図書の本に触れる子どもが増えています。

